

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

淳厚苑

日付 平成 20年 12月 11 日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験6年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「紅葉が見頃になってるよ」職員の話から、その気になって利用者達が紅葉狩りに行くことになった。「外は寒いかな?何着て行こうか」とベストの上にベストを重ね着して、うきうき身支度する人もいる。いつもは外出が億劫なAさんもつられて車に乗り込んでしまった。タイミングを見て職員が車のカセットを流す。「舟木一夫か?私は氷川きよしの方がええ」と言いつつ、歌の好きなAさんは高校三年生を口ずさむうちに上機嫌になる。「私は大阪に居ったんじゃ」が口癖のBさんは、通りすがりの家を見ては「ここは私の家の方じゃろ、あの家に居ったのかもしれん」を繰り返す。「ええ天気じゃ、嬉しいな。私ら何もろくにせずに歌を歌いながら紅葉見にいけるんじゃな、有難いことじゃ」笑顔が弾ける。目的地に着くと「短足胴長のお婆あちゃんがありませう」Aさんは真っ先に車を降りて「奥様、お手をどうぞ」とふざけて声を掛ける。目敏く道端のむかごを見付けたCさんは「炒って食べれる。ご飯に入れても美味しい。お土産に持って帰ろう」手も口も忙しくむかご取りに夢中になる。「このシダは蕨じゃ。この熊笹で餅巻いたらええ」自然の中には昔馴染みがいっぱいある。「この紅葉の色もええけど、この奥へ行ったら又違うたええ色の紅葉があるんじゃ」「この地を良く知って知る車椅子のDさんが、懐かしそうにしみじみ話してくれる。「ここはどこよ?」「黒木山」「あの山ポンと越えたら津山じゃろ?」職員と何度も繰り返すやりとりも微笑ましい。「男じゃったら酒出して呑むじゃろ あんた折買うてこんかつたんか?」弁当を持ってこなかった事を悔しがる人もいる。紅葉をバックに写真を撮ると「もっとええ顔しようと思っていたのに、はやとったんか?」と誰かが言って大笑い。思った事そのままにポンポン言って遠慮がない。「とにかく笑顔で、一緒に遊んで一緒に話して、のんびり楽しく過ごそう」と言う管理者と、「年いって、ああしろこうしろでなく思いどおりにさせてあげたい」と話す職員の思いはひとつ「こちらが親身になれば、ちゃんと判ってくれる」信頼しながら、ありがままの個性を發揮して共に過ごす生活が、一人ひとりの生き生きした表情と極上の居心地の良さを生み出している。ホームに帰って昼食を食べたCさんが「朝からな～んもしとらんのに、なんでか眠とうなった」と笑う。紅葉を見に行った事はもう忘れてしまっているけど、Cさんの今はいつも楽しい。

特に改善の余地があると思われる点

ホーム玄関や入り口には、手作り作品を置いて親しみ易い雰囲気が漂っている。今後は、階段の白い壁の有効利用を考えているそう。ホームの得意な廃物利用の作品を掲げるのも楽しいだろう。又ホームは小学校との交流を図りたいと聞いたので、小学生や園児の作品発表の場にするのもよさそう。子供達の励みになり、父兄を含めて新たな人がホームに来るきっかけができて、利用者の癒しにもなりそう。運営推進会議等の議題にしてみんなで話しあってみよう。来年ホームを訪問するのが今から楽しみだ。

こんなに生き生き楽しい利用者達の言動を大変だとは思っている範囲で記録として残しておいて貰えたらと思う。何度も読み返したくなるエピソード記録ができそう。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…特に改善項目は無い。職員会議で理念については話し、深く浸透しているが、毎年それぞれの職員が理念を基に各自の年度目標を立てたり、理念を念頭に置いて、毎日一日何をするか目的を持って仕事に出るよう心がけ、初心に戻って良くしていこうと努めている。</p> <p>2、全体的に見て…「笑顔を大切に、会話中心で、此处は生活の場なのだから頑張ろうと思わずに自然にやれたらいい。とにかく利用者が寂しくないように、何でも話せるように、楽しく毎日過せるようにしよう」と管理者はいつも職員に話している。母体法人も手厚い人員配置にして、職員ができるだけ利用者に関われるようサポートしている。職員達は仲が良く、助け合いの気持ち強い。気持ちよく働ける職場は、利用者達にとっても居心地が良い。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…グループホームとして恵まれているとはいえないが、現状の施設を工夫して利用者の住みやすい空間になる様努力している。特に改善項目は無い。今後玄関からホーム入り口へ続く白い壁の活用を検討しているとも聞いた。</p> <p>2、全体を見て…静かに過すのが好きな男性Eさんは、食前に居室からリビングに出て来て新聞を読む。食事が終わると直ぐに、女性陣が賑やかに談笑するリビングから誰もいない廊下向こうの談話室に移り、テレビをかける。時折職員たちが通りがかった風を装って話しかけると、笑顔で応じている。Eさんは居室に戻ったり、2つの共有スペースを歩き来しながら、マイペースで過している。職員の見守りが行き届き、気にかけて貰っているのが判っている。Eさんはいつも一人でいるが独りではない。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…本人のやる気を引き出す親身な関わりで、入所してよかった事例も多い。今のサービスを今後も継続して欲しい。特に改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…「おいおい、早う起きんか」と誰かに話しかけ「何かいるから見てください」と訴えるFさんには蛇と子供が見えていた。ホームでは医師と相談しながら少しずつ薬をやめた。Fさんの症状は治まり、表情も良くなって笑顔が増えた。</p> <p>転倒骨折して車椅子で入所してきた人ができる限り手引き歩行で気長に支援するうちに、今では手すりを持って杖で歩けるようになった。食事拒否の人や、アルコール中毒で徘徊していた人も、ホームで暮らすうちに改善した。昨年ちょうど訪問した時は、一日中歌い続け、浄瑠璃語りをしていたGさんも普通に会話ができるようになっていた。「今日のコロッケ美味しかろう?」と職員に聞かれ、「美味しくない」と遠慮なく言いつつパクパク食べていた。落ち着いて、その人らしさを取り戻した姿を見て、ホームの取り組みの成果を実感した。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…母体法人全体で協働し、地域のニーズに応えながら地域貢献に努めている。利用者も職員も地元の人が多く、ホームの存在は高い評価を受けている。特に改善項目は無いが、ホームの便りを発行し更なる浸透を図ろうと貢献的は企画を立てている。</p> <p>2、全体的に見て…通所サービス利用者とホームに住民が、子供の事と、昔住んでいた大阪の話の全くかみ合わぬトンチンカンな会話で盛り上がる。二人で笑いながらとてもいい顔を。デイの送迎について行って、仕事をしているつもりで世話を焼く人もいる。地域の要望で開所した通所サービスはホームの新しい風を入れてくれた。ホーム自慢の廃材利用の手作り作品を幼稚園や保育園の卒園プレゼントにしたり、毎年恒例の地域行事スローライフ列車イベントのバザーに出すのも定着した。「ホームが頑張るとるPRしたらええ、私らが売ったげる」地域住民が後押ししてくれるようになった。無理の無い自然な流れの中での地域との交流が根付いている。</p>		